

著書

- 1 明治国家形成と地方経営 1881-1890年 単著昭和55年11月 東京大学出版会
明治国家の形成過程について、藩閥対立と省庁対立を軸に、地方経営を焦点に論じたもの。国会図書館憲政資料室所蔵の明治の政治家たちの書翰(草書体)の分析を中心としている。東京市政調査会藤田寛受賞。今なおこの分野における必読文献といわれている。P288
- 2 首都計画の政治 形成期明治国家の実像 単著昭和59年11月 山川出版社
著書1の問題意識を発展させ同時期の東京の都市計画(首都計画)を焦点に論じたもの。元老院や東京市区改正などの会議録及び当時の新聞のマイクロフィルムを分析の中心にすえた。組織論や行政手続きなどミクロな論点にみるべきものがある。都市計画史への広がりをも有し、関連分野からの引用が多い。P340
- 3 日本近代史における転換期の研究 共著 昭和60年6月山川出版社
第一部第二章「国会論と財政論-十四年政変再考」(P119-140)を分担執筆。編者坂野潤治,宮地正人分担執筆者 馬場康雄,坂野潤治,宮地正人,御厨貴,M・W スティール,森山茂徳,高橋進,宮崎隆次,伊藤之雄
- 4 言論は日本を動かす 1)近代を考える 共著昭和61年1月 講談社
「田口卯吉」(P33-66)を分担執筆。編集委員内田健三,粕谷一希,丸谷才一,三谷太一郎,山崎正和分担執筆者三谷太一郎,松本三之介,御厨貴,山領健二,宇都宮徳馬,中村隆英,篠田一士,佐々木毅野田宣雄,中村稔
- 5 日本歴史大系・近代 共著 昭和62年5月 山川出版社
第2編第4章第一節「地方制度改革と民権運動の展開」(P496-529),第二節「十四年政変と基本路線の確定」(P535-582)を分担執筆。編集大久保利謙。総説 坂野潤治。分担執筆者は合計13名。
- 6 日本経済史 7巻「計画化」と「民主化」 共著平成元年1月 岩波書店
5「戦時・戦後の社会」(P237-282)を分担執筆。戦時・戦後の社会変容を古川ロッパ日記と国土計画を手がかりに政治社会学的に考察したもの。編集中村隆英。分担執筆者中村隆英,原 朗,三和良一,宮崎正康,伊藤修,御厨貴,香西泰。
- 7 江戸・東京を造った人々文化のクリエイターたち共著 平成5年12月 都市出版
「東京人としての昭和天皇」(P459-480)を分担執筆。昭和天皇を東京という都市との関わりの中に位置付けたユニークな論文。童門冬二,磯村英一ら22名が分担執筆者。
- 8 シリーズ東京を考える 1 都政の五十年 共著平成6年12月 都市出版
「第1巻の編集にあたって」(P1-6)第一章「都政は『都』を,そして『都民』を越えられるか」(P17-94)を分担執筆。「座談会都政五十年を総点検する」(出席者 村松岐夫,東郷尚武,粕谷一希)にて報告(P273-317)責任編集御厨貴。
- 9 シリーズ東京を考える 2 東京の政治 共著 平成7年1月都市出版
「解説 都議会議員が見えてきた」(P180-185)を分担執筆。「座談会東京の政治が日本を動かす」(出席者村松岐夫,塚田博康)にて報告(P19-56)責任編集村松岐夫。

10 シリーズ東京を考える 3 都庁のしくみ 共著平成 7 年 3 月 都市出版

「第三巻の編集にあたって」(P1-4)第一章「都庁の権力構造」(P41-79)を分担執筆。「鈴木俊一都知事インタビュー(村松岐夫と)」(P15-40)「真仁田勉元副知事インタビュー」(P80-113)をインタヴューアーとして担当。責任編集御厨貴。

11 戦後日本・占領と戦後改革 2 占領と改革 共著平成 7 年 8 月 岩波書店

4「『帝国』日本の解体と『民主』日本の形成-統治構造と統治イメージの転換-」(P155-194)を分担執筆。1930年代から1950年代までの日本の統治構造を、統治イメージの視角から考察。目鼻立ちをはっきりさせた論文。編集 中村政則,天川晃 伊 健次,五十嵐武士。分担執筆者は升味準之輔ら 8 名。

12 戦後日本の宰相たち 共著 平成 7 年 10 月 中央公論社

「田中角栄-開発政治の到達点」(P209-238)を分担執筆。首相に至るまでの政治家としての田中角栄のリーダーシップの特質を分析したもの。編集渡辺昭夫 分担執筆者は北岡伸一,中村隆英,高坂正堯ら 20 名。

13 政策の総合と権力 日本政治の戦前と戦後単著 平成 8 年 4 月 東京大学出版会

「国策統合機関」「水利開発」「水資源開発」「国土計画」を各々テーマにした 4 つの論文を「政策の総合」即ち政策の計画化と総合化の観点からまとめたもの。サントリー学芸賞受賞。P264

14 東京 首都は国家を超えるか 単著 平成 8 年 5 月 読売新聞社

都政史研究の成果の一つ。著書 8.9.10 に書いたものを中心に、首都東京という都市が、日本という国家を様々な面で超えようとする動きを捉えている。具体的には、「帝都は帝国を超えるか」「都政は日本を超えるか」「都のしくみは国のしくみをこえるか」の三部構成である。P334

15 忘れられた日米関係 ヘレン・ミアーズの問い共著 平成 8 年 8 月 筑摩書房(ちくま新書)

日本政治史専攻の御厨貴とアメリカ公共政策史専攻の小塩和人による、文字通りの共同執筆論文。分担執筆の形をとらない共同研究の成果である。半世紀前に「アメリカの鏡・日本」を書いたヘレン・ミアーズについて調査し、知識汚染なきミアーズの視角から日米関係観を再検討。P206

16 普及版・日本歴史大系 13 明治国家の成立共著 平成 8 年 9 月 山川出版社

著書 5 を分割しコンパクトにした新版。第四章第一節「地方制度改革と民権運動の展開」(P258-291)第二節「十四年政変と基本路線の確定」(P297-344)を分担執筆。編集大久保利謙 分担執筆者は坂野潤治,高村直助,高橋昌郎,我部政男,御厨貴

17 本に映る時代 単著 平成 9 年 5 月 読売新聞社

読売新聞読書委員として執筆した書評コラム 90 編をテーマ別に集大成し、他の本にまつわるエッセーを加えたもの。1990年代という同時代を本を通して捉えるとともに、近現代政治読本となるように工夫している。P310

18 馬場恒吾の面目 危機の時代のリベラリスト単著 平成 9 年 6 月 中央公論社

戦前「読売新聞」や「中央公論」などに、政治時評、政界人物評論を書き続けて政治評論家の第一人者とされた馬場恒吾のリベラリストとしての一生を問うた評伝。1930年代の「読売新聞・日曜時評」400 編を分析。P240

学術論文

- 1 明治国家機構創設過程における政治指導の競合-内閣制度および帝国議会創設の政治過程-(一)(二)(三)(四) 単著 (一)昭和 53 年 10 月(二)昭和 53 年 12 月(三)昭和 54 年 4 月(四)昭和 54 年 8 月 国家学会雑誌 91 巻 9・10 号 91 巻 11・12 号 92 巻 3・4 号 92 巻 7・8 号
東京大学法学部助手の任期満了までに書き上げたいわゆる助手論文を活字化したもの。著書 1 になったものの原型論文。明治国家形成期の政治指導者のリーダーシップの競合を分析。(一)P1-89, (二)P42-121, (三)P59-103, (四)P38-75
- 2 国策統合機関設置問題の史的展開-企画院創設にいたる政治力学- 単著 昭和 54 年 10 月 年報・近代日本研究 1 号-1979 山川出版社
1930 年代の政治統合をめざして,国策統合機関の設置問題について実証的分析を試みたもの。著書 13 に編まれたものの原型論文。P122-172
- 3 大久保没後体制-統治機構改革と財政転換- 単著 昭和 56 年 11 月 年報・近代日本研究 3 号-1981 山川出版社
学術論文 1, 著書 1 の問題意識をひきつぎ,明治 11 年の大久保没後から明治 14 年の政変までの政治過程を実証的に分析したもの。P263-300
- 4 初期官僚制 単著 昭和 57 年 1 月 歴史公論 8 巻-3 号雄山閣
明治 10 年代の明治国家形成過程における官僚制形成への歩みを概観したもの。P67-72
- 5 明治国家形成と都市計画-東京市区改正-(一)(二) 単著 (一)昭和 57 年 7 月(二)昭和 57 年 12 月 東京都立大学法学会雑誌 23 巻-1 号,2 号
著書 1 の問題意識をひきつぎ,東京市区改正を焦点とする明治国家形成期の都市計画について実証的に分析したもの。著書 2 になったものの原型論文。(一)P1-88, (二)P1-88
- 6 明治国家形成期の都市計画-東京市区改正の政治過程- 単著 昭和 58 年 3 月 歴史公論 9 巻-5 号雄山閣
学術論文 5 をベースにしなが,学術論文 4 と同じ手法を用いて,都市計画の政治過程の中に官僚制形成の一側面を考察している。P30-37
- 7 "水系"と近代日本政治-河川法をめぐる政治史の試み- 単著 昭和 58 年 7 月 創文 234 号(7 月号)創文社
日本近代化の過程で,河川を中心とする"水系"の問題が,技術・行政・政治の各側面で争点化する実態を概観したもの。明治初年から昭和 30 年代までを扱う。P1-5
- 8 水利開発と戦前期政党政治-政党と官僚及び官僚相互の交錯- 単著 昭和 60 年 3 月 年報政治学・近代日本政治における中央と地方 1984 岩波書店
戦前期政党政治の発展と限界を,水利開発をアリーナとする政党間及び政党と官僚そして官僚相互の交錯の中に浮きぼりにした論文。著書 13 に編まれた論文の原型。P125-162
- 9 地方の時代と明治の地方官 単著 昭和 61 年 10 月 叢書月刊 2 巻 11 号弘隆社
明治の地方官の在り方について再検討を加えるべきことを問題提起した論文。P1-4

- 10 東京統治事始-芳川・星・田口- 単著 昭和 61 年 10 月研修とうきょう 6 号東京都職員研修所
東京の統治について意識的にたずさわった芳川顕正, 星亨, 田口卯吉の三者の足跡を概観したもの。P8-12
- 11 水資源開発と戦後政策決定過程-昭和 20 年代～30 年代単著 昭和 61 年 11 月 年報・近代日本研究 8 号-1986
山川出版社
GHQ 占領期から吉田・鳩山・岸池田の各内閣における水資源開発をめぐる各アクター間の競合関係を考察した論文。
田中角栄の存在に最初に学問的に着目したもの。著書 13 に編まれた論文の原型。P243-277
- 12 「芦田均日記」に見る"首相"の心理的葛藤のドラマ単著 昭和 62 年 1 月 通産ジャーナル 2 月号
「芦田均日記」をベースに, 芦田の首相時代前後の言動を分析したもの。P36-38
- 13 都市計画研究への期待政治・行政とのリンケージの必要性と必然性単著 昭和 62 年 3 月 都市計画 144 号
都市計画史と政治行政学とのリンケージが, 都市計画研究の内容を豊かにする可能性を論じたもの。P18-20
- 14 昭和 20 年代における「第二保守党」の軌跡 - 「芦田日記」「重光日記」にみる芦田・重光・三木- 単著 昭和 62 年 11 月 年報・近代日本研究 9 号-1987 山川出版社
「芦田均日記」「正・続重光葵手記」をつきあわせる作業を通して, 昭和 20 年代の第二保守党(民主党-国民民主党-改進黨-民生党)の系譜を追い, 芦田・重光・三木武夫の三者にスポットをあてて論じたもの。P289-316
- 15 「高橋是清遺稿集」とその周辺-連資料」を求めて- 単著 昭和 63 年 3 月 特許研究 5 号
「高橋是清閣高橋是清元首相の資料は, 特許庁, 都立大学, 国会図書館などに分散されており, それもすべてではない。残された資料をいかに捜すべきかを展望したもの。P24-27
- 16 日本政治における地方利益論の再検討 単著昭和 63 年 4 月 レヴィアサン 2 号 木鐸社
近代日本政治史を地方利益論の系譜として考察し, 星亨・原敬・田中角栄の三者にスポットをあてて論じたもの。
P141-151
- 17 昭和史のなかの国土計画 単著 昭和 63 年 7 月中央公論 8 月号
戦前から GHQ 占領期をへて, 池田内閣の全総, 佐藤内閣の新全総が決定されていくプロセスを概観した論文。
P384-397
- 18 飽和点に達した栄典制度 単著 平成 2 年 2 月中央公論 3 月号
明治時代以来の日本の栄典制度, とりわけ「勲等」の制度化と戦後日本における定着過程を政治史の文脈の中で追求している。P412-419
- 19 相互理解への努力と"One more Seat"の精神単著 平成 4 年 1 月 通産省公報 1 月 6 日号
2 年間のハーバード大学留学の体験をベースに, 日米関係についての今後の在り方を提言。P30-32
- 20 歴史政策論のすすめ 歴史は決定に役立たないか共著 平成 4 年 4 月 アスティオン Spring
小塩和人との文字通りの共同執筆。アメリカ留学の成果の一つであり, 政策決定における歴史情報の活用の在り方について考察した論文。P62-77

- 21 「象徴性」と「実務性」社会時評 1) 単著平成 4 年 7 月 アステイオン Summer
戦後歴代東京都知事について、「象徴性」と「実務性」の視点から論じたもの。著書 14 に改定の上もりこむ。P144-147
- 22 失われた大学生を求めて社会時評 2) 単著平成 4 年 10 月 アステイオン Autumn
大学改革の動きを焦点に、大学人のあり方を論じ、予備校やカルチャースクールと対比したもの。P148-151
- 23 スキャンダルは政治を変える 単著 平成 4 年 11 月中央公論 12 月号
昭電疑獄から佐川事件まで、戦後 5 回あった権力直撃型スキャンダルが、政治構造を変えた有様を論じる。P134-139
- 24 東京人としての昭和天皇 単著 平成 4 年 12 月東京人 12 月号
江戸・東京を象徴的に作った人の一人として昭和天皇を捉えたもの。著書 7 に転載された。P117-123
- 25 居足らずして礼節を知らず社会時評 3) 単著平成 5 年 1 月 アステイオン Winter
アメリカ留学と住宅史研究の成果のひとつ。日米住宅比較と日本の建築事情を論じる。著書 17 に転載。P152-155
- 26 第二保守党をめぐる「同期生」の葛藤 単著平成 5 年 2 月 月刊 Asahi 1-2 月合併号
「芦田均日記」と「重光葵日記」を外務省同期生 2 人の葛藤という視点から分析したもの。P34-35
- 27 世紀末日本の政界再編成へむけて 単著 平成 5 年 4 月アステイオン Spring
自民党体制のいきづまりに際して、過去の政党政治の歴史をふり返り、現代日本の政治改革への教訓を読みとろうとしたもの。P30-39
- 28 二つの「国際化」最前線社会時評 4) 単著平成 5 年 7 月 アステイオン Summer
ストリート・レベルの「国際化」の実態をゼミの学生のフィールドワークを元に概観。P158-161
- 29 これからは動物的嗅覚の政治家しか生きられない単著 平成 5 年 7 月 週刊時事 7 月 31 日号
宮沢内閣不信任と 55 体制崩壊を決定的にした平成 5 年 7 月の総選挙の結果について、歴史をさかのぼって議論したものの。P14-18
- 30 関東大震災が造り出した昭和 単著 平成 5 年 9 月よむ 9 月号岩波書店
関東大震災後の昭和の東京について、復興のプロセスを本をめぐる議論を中心に、政治社会学的に考察したもの。著書 14 に編まれたものの原型論文。P4-9
- 31 政権党を割った政治家たち社会時評 5) 単著平成 5 年 10 月 アステイオン Autumn
政権党を割った歴史的先例を 19 世紀末の星亨と 1920 年代の横田千之助に求め、比較検討したもの。P154-157
- 32 "細川政権"価値の多様化か指導力強化か社説を検証する単著 平成 5 年 10 月 This is 読売 11 月号
朝日・読売・毎日・日経・産経・東京の 6 大紙における成立時の細川政権イメージの変化を社説の検討を通じて比較考察した論文。P192-197
- 33 東京が西に広がった日 単著 平成 5 年 11 月東京人 11 月号
東京の私鉄が西に広がっていった様子を、関東大震災後の東急の発展と"大東京"の出現に見出した論文。著書 14 に編まれたものの原型論文。P31-35

- 34 「病院」の考現学社会時評 6) 単著 平成 6 年 1 月 アステイオン Winter
病院と人とのかかわりについて、今日的考察と歴史的検討を行ったもの。著書 17 に転載。P142-145
- 35 戦後五十年へのまなざし社会時評 7) 単著平成 6 年 4 月 アステイオン Spring
平成 3 年 11 月に行われた「太平洋戦争の再考察」と題する開戦 50 周年国際会議のコメントを文章化したもの。
P92-95
- 36 地域を生きる 社会時評 8) 単著 平成 6 年 7 月アステイオン Summer
国家と地域をいかにつなぐかについて、歴史をふり返りつつ現代のあり方を考察した論文。著書 17 に転載。P84-87
- 37 馬場恒吾の面目 1)2)3)4)5)6) 単著 1)平成 6 年 10 月 2)平成 7 年 1 月 3)平成 7 年 4 月 4)平成 8 年 1 月 5)
平成 8 年 4 月 6)平成 8 年 7 月 アステイオン Autumn アステイオン Winter アステイオン Spring アステイオン
Winter アステイオン Spring アステイオン Summer
政治評論家 馬場恒吾の評伝。著書 18 に改定増補して編まれたものの原型論文。1)P204-221 2)210-230 3)P218-236
4)P184-203 5)P226-247 6)P218-237
- 38 ヘレン・ミアーズの問い-忘れられた日米関係共著 平成 7 年 12 月 外交フォーラム 12 月号
「アメリカの鏡・日本」を書いたヘレン・ミアーズについての、小塩和人との共同執筆論文。これをさらに拡充発
展させたものが著書 15 である。P63-76
- 39 国土計画と開発政治-日本列島改造と高度成長の時代- 単著 平成 7 年 12 月 年報政治学・現代日本政官関係
の形成過程-1995 岩波書店
昭和 30 年代から 40 年代にかけての「国土計画」を焦点とする「開発政治」における政官関係について、政策担当
者へのインタビューを資料として具体的・実証的に分析したもの。P57-76
- 40 開発政治のなかの田中角栄 単著 平成 8 年 2 月本 3 月号 講談社
戦後政治の担い手の中で、岸信介-田中角栄-中曽根康弘と続く権力の系譜について、田中を焦点に論じたもの。
P22-24
- 41 自社さ「決定先送り」の構造 単著 平成 8 年 2 月中央公論 3 月号
村山富市 自社さ政権における政策的手詰まりの状況を、政策担当者へのインタビューをベースに構造的に分析し
たもの。P62-71
- 42 20 世紀日記抄「石原廣一郎・敗戦から獄窓まで」単著 平成 8 年 9 月 This is 読売 10 月号
戦後 A 級戦犯容疑で巣鴨プリズン入りした実業家石原唐一郎が獄中の人間模様をまとめた手記をもとに彼等の世
界を分析。P298-303
- 43 ヘレン・ミアーズの奥深さ 単著 平成 8 年 10 月ちくま 11 月号
小塩和人との共著書 15 に補遺すべき事柄をまとめたもの。P12-13

44 開発政治 単著 平成 8 年 12 月 AERA MOOK No,17 政治学がわかる

開発政治の検証方法としてのオーラルヒストリーについて解説。P28-29

45 官僚制の生理と病理-薬害エイズとオウム教団- 単著 平成 9 年 1 月 アステイオン Winter

現代日本の矛盾が最も先鋭的に現れたエイズとオウムの中に官僚制の惰性化と活性化をめぐる契機が潜在していることを分析。P88-96

46 「立ちすくむ東京」の静かな挑戦 単著 平成 9 年 5 月潮 6 月号

青島都政の折り返し点にあたって、「生活都市東京」構想を考察し、都議選を展望したもの。P76-85

編集・校訂

1 伊藤博文関係文書 六.七.八.九巻共著 六.昭和 53 年 3 月七.昭和 54 年 3 月八.昭和 55 年 2 月九.昭和 56 年 2 月塙書房

「伊藤博文関係文書」の共同校訂・編集。伊藤隆を代表者とする「伊藤博文関係文書研究会」を編者としている。

2 宮島誠一郎関係文書目録 共著 昭和 60 年 8 月東京都立大学法学部御厨研究室

「宮島誠一郎関係文書」の共同整理と目録作成。御厨貴を代表者とする「宮島誠一郎関係文書研究会」を編者としている。P90

3 山岡萬之助関係文書目録 共著 昭和 63 年 7 月学習院大学法学部

「山岡萬之助関係文書」の共同整理と目録作成。御厨貴と坂本多加雄を代表者とする「山岡文庫研究会」を編者としている。P140

編集・解説

1 『中央公論』で昭和を読む(一)(二)(三)(四) 共著 (一)平成元年 3 月 (二)平成元年 4 月 (三)平成元年 5 月 (四)平成元年 6 月 中央公論 4 月号 5 月号 6 月号 7 月号

昭和の初期から現代までの『中央公論』掲載論文からアンソロジーを作り、解説を付してまとめたもの。選考委員は石川好,加藤興洋,杉山隆男,御厨貴

2 下河辺 淳 戦後国土計画への証言 共著 平成 6 年 3 月日本経済評論社

戦後一貫して国土計画に関わってきた下河辺淳のロング・インタビュー。インタビュアーは本間義人,檜楨貢と御厨貴.付記も執筆。P387-388

3 経済安定本部 戦後経済 政策資料 34,35,36,37 巻『建設』編共著 平成 7 年 11 月 日本経済評論社

「経済安定本部資料」の編集と解説執筆。全体は林建久を代表者とする「戦後経済政策研究会」の共同編集であるが、『建設』編は御厨の単独編集。34 巻の冒頭に解説 12 頁。

4 戦後国土政策の検証-政策担当者からの証言を中心に-(上)(下) 共著 平成 8 年 1 月 総合研究開発機構(NIRA)

研究報告書)

「国土計画研究会-経緯研究小委員会」(主査御厨貴)における政策担当者 11 名のヒアリング記録に論点整理と序と総括をつけてまとめたもの。オーラルヒストリーの代表例である。(上)260頁(下)420頁

5 笹川良一「巣鴨日記」<抄> 共著 平成8年8月 中央公論 9月号

戦後 A 級戦犯容疑で巣鴨プリズンに入った笹川良一が記した獄中日記を編集し直し解説を付した。「日記」P182-198 「解説」P199-208

6 笹川良一「巣鴨日記」 共著 平成9年2月 中央公論社

笹川良一の「巣鴨日記」を全部集録した上笹川の獄中書翰を付録としてまとめたもの。「解説」も上記5を加筆補訂している。「解説」P1-28

7 石原信雄 平成の首相官邸 (一)(二)(三)(四)(五) 共著 (一)平成8年11月(二)平成8年12月(三)平成9年1月(四)平成9年2月(五)平成9年3月中央公論 12月号 1月号 2月号 3月号 4月号

7年余、内閣官房副長官を勤めた石原信雄のロング・インタビューの整理と解説を御厨が担当。オーラルヒストリーの代表例。インタビューは(一)P28-53 (二)P180-203 (三)P82-106 (四)P180-204 解説は(一)P54-60 (二)P203-208 (三)P106-110 (四)P205-208 (五)はインタビュー解説とも P184-208

報告書

1 人と国土の将来像に関する調査()報告書-国土形成の長期的推移と展望- 共著 昭和59年3月 (財)日本地域開発センター

国土計画の歴史的研究を四全総へ向けての提言の形にしたもの。伊藤滋が座長。御厨は「水系の政治史」を担当。

2 多摩島しょ地域の市町村が直面する行財政の課題に関する調査-大都市周辺における過疎問題について- 共著 昭和61年3月 東京都総務局多摩島しょ対策部

東京都西多摩郡檜原村のフィールドワーク調査をまとめたもの。石村善助が代表。御厨は坂本一登、野島博之と<政治・行政>班を構成し、「高度成長期の檜原村村議会-昭和34年~昭和42年-」の序(P321-323)を執筆。

3 "過疎"檜原村の選挙調査報告書-高度成長の時代とその後- 共著 昭和61年9月 総合都市研究 28号

上記2にすべての報告をもちこめなかったため、選挙調査のデータとデータ分析を独立して別にのせたもの。野島博之との共著であるが御厨は 総論(P142-144)を執筆。

4 機械工業振興臨時措置法が及ぼした経済的・社会的影響に関する調査研究 (1) (2) (3) 共著 (1)昭和62年7月 (2)昭和63年8月 (3)平成元年8月 (財)産業研究所

昭和31年の機振法定定の歴史的回顧をインタビュー、工場見学のフィールドワークを通じて行い、共同作業の覚書を作成。主査は尾高煌之助。通産省が政策事例研究へ向かった初めてのケースとして注目に値する。

5 新しい地域開発諸制度のあり方に関する基礎調査報告書共著 平成元年3月 (社)日本リサーチ総合研究所

地域開発制度の歴史的変遷を、下河辺淳を講師とする「地域開発制度研究会」において検討した上で、小林良邦主幹が中心になり年表や資料一覧もそろえてまとめたもの。御厨はインタビュアーの一人である。

- 6 首都機能移転と地方行財政のあり方に関する調査研究共著 平成 9 年 3 月 (財)地方自治研究機構
首都機能移転につき,諸外国との比較や首都形成の歴史や憲法上の問題を検討。御厨は「東京都の地方制度の沿革」
を執筆。P87-98
- 7 機振法と私-戦後産業政策史の一コマを語る- 共著 平成 9 年 3 月 一橋大学経済研究所ディスカッション・ペ
ーパーシリーズ(B) No,21
上記 4 の報告書に盛り込めなかったインタビュー記録 3 人分を載せる。編者は尾高煌之助。御厨はインタヴューア
ーの一人である。

書評論文

- 1 ゴードン・バーガー「日本における政党の権力喪失過程 1931-1941」 単著 昭和 54 年 10 月 年報・近代日本
研究 1 号-1979 山川出版社 P440-457
- 2 有泉貞夫「明治政治史の基礎過程-地方政治状況史論」 単著 昭和 56 年 2 月 史学雑誌 90 巻 2 号 P83-90
- 3 日本・近代・昭和戦前期政治史 1980 年の歴史学界・・回顧と展望 単著 昭和 56 年 5 月 史学雑誌 90 巻 5 号
P165-173
- 4 升味準之輔 「日本政党史論」全 7 巻をめぐって 単著 昭和 56 年 12 月 東京都立大学法学会雑誌 22 巻 2 号
P209-223
- 5 我部政男編「明治十五・十六年地方巡察使復命書」上・下 単著 昭和 57 年 3 月 史学雑誌 91 巻 3 号 P110-111
- 6 伊藤 隆「昭和十年代史断章」 単著 昭和 57 年 10 月年報・近代日本研究 4 号-1982 P471-483 山川出版社
- 7 藤森照信「明治の東京計画」 単著 昭和 58 年 10 月史学雑誌 92 巻 10 号 P84-94
- 8 井出嘉憲「日本官僚制と行政文化」 単著 昭和 59 年 2 月年報・行政研究 18 号-1984 P193-205 勁草書房
- 9 大平正芳回想録刊行会編「大平正芳回想録」 単著 昭和 59 年 2 月 史学雑誌 93 巻 2 号 P102-104
- 10 特許庁編「工業所有権制度百年史」上巻 単著昭和 60 年 6 月 史学雑誌 94 巻 6 号 P109-111
- 11 安藝皎一著作選「川の昭和史」 単著 昭和 61 年 1 月日本歴史 452 号 P135-136
- 12 山田栄三「正伝・佐藤栄作」(上・下) 単著平成元年 2 月 外交フォーラム 2 月号 P60-63
- 13 戸部良一「ピース・フィーラー・支那事変和平工作の群像」 単著 平成 4 年 3 月 国際政治 99 号 P201-206

英文論文

- 1 Review:Nihon Seito Shiron,by Masumi Junnosuke.7Vol. 共著 昭和 58 年 2 月 The Journal of Japanese Studies Winter.1983 P149-160
George Akita と共同執筆。
- 2 Political History:Party Politics A Blast from the Past 単著 平成 5 年 12 月 Look Japan December,1993
55 年体制崩壊にいたる政治過程を,戦前からの流れの中で比較検討した論文。P10-12
- 3 Cover Story:Bureaucracy Bureaucrat-Bashing:Is it Fair? 単著 平成 6 年 3 月 Look Japan March,1994
戦後日本官僚制のあり方を機振法やドルショックなど具体的争点を中心に分析し,現代官僚制までを概観する。
P4-7
- 4 A Status Quo Administration 単著 平成 8 年 6 月 Japan Echo Summer 1996
村山政権の行きづまりについて概観したコメント論文。P32-33
- 5 Anatomy of a Political Impasse 単著 平成 8 年 6 月 Japan Echo Summer1996
学術論文 61 の英訳版。P34-40
- 6 The Establishment of the 1955 Regime:From the Perspective of Changes in the Image of Government under the Constitution of Japan 単著 平成 8 年 7 月 ACTA ASIATICA No,71 The Toho Gakkai
著書 11 のテーマを発展させ,戦後の射程距離を長く池田内閣にまでのばして検討した論文。
- 7 Reforming The Bureaucracy 単著 平成 8 年 9 月 Japan Echo Autumn 1996
エイズ問題等で明らかになってきた日本の官僚制の欠陥に関して議論したコメント論文。P6-9
- 8 General Election'96 単著 平成 8 年 12 月 Japan Echo Winter 1996
1996 年 10 月総選挙の結果をふまえて今後の見通しを考察したコメント論文。P6-7
- 9 Evaluating the Election 単著 平成 9 年 3 月 Japan Echo Spring 1996
自民党,新進党,民主党の今後の動向と行財政改革や小選挙区制の問題を視野に入れて検討したコメント論文。
P6-7

英文論文

- 1 Japan Echo:Special Issue The Japanese Bureaucracy 共著 平成 9 年 2 月 Japan Echo Inc.
近代日本の発展を「政」と「官」の観点からふり返り,丸山真男,後藤田正晴,司馬遼太郎,山本七平,京極純一,橋口収,天谷直弘,堺屋太一,野口悠紀雄,榊原英資の 10 人の代表的著作を選んで,アンソロジーを編集した。102 頁官僚制の歴史・文化的視点からの再検討という文脈の中で 10 人の論文をとらえるという主旨の「解説」を Introduction として付している。P1-13